

平泉研究 —平成から令和へ、課題と展望—

平泉遺跡群調査整備指導委員会の委員長である田辺征夫氏による基調講演のほか、これまで20年にわたり、岩手県と平泉文化の共同研究を行っていただいた研究者による「平成の平泉」を振り返る研究報告やパネルディスカッションなど内容満載。世界遺産に登録された平泉の文化と一緒に学んでみませんか。

入場無料・事前申し込み不要です。

基調講演

日本の遺跡保存と活用、この30年 —世界遺産“平泉”誕生の意義に寄せて—

今から30年前、「平成」の世を迎え、日本各地で開発に伴う発掘調査が相次いだ頃、岩手・平泉の「柳之御所遺跡」の発掘調査のニュースが全国でも大きく取り上げられていました。新たな事実が明らかになるとともに、「柳之御所遺跡」の保存を求める声が後押しとなり、保存そして世界遺産登録の取組を進めていくこととなります。

平泉をはじめとする大規模遺跡の保存、活用の手本となったのが「平城宮跡」です。「平城宮跡」の調査、保存に直接関わった氏の具体的な実践をもとに日本の遺跡の保存・活用の歴史について学びます。

平泉は現在、柳之御所遺跡を含めた5遺跡の拡張登録をめざしています。「平泉」の持つ魅力の発信、地域と観光の進め方、そして地元にとっての世界遺産のあり方はどうあればよいかについて紹介しながら、今後の平泉研究の課題と展望を明らかにしていきたいと思えます。

いくお
田辺 征夫 氏 ((公財)大阪府文化財センター理事長、(財)仏教美術協会理事長)

1944年生。慶應義塾大学文学部卒業。京都大学文学研究科修士課程中退後、奈良国立文化財研究所に勤める。途中、奈良市教育委員会社会教育部文化財課長、文化庁文化財保護部美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長などを経験し、平城宮跡発掘調査部長、飛鳥藤原宮跡発掘調査部長、奈良文化財研究所長などを歴任した。

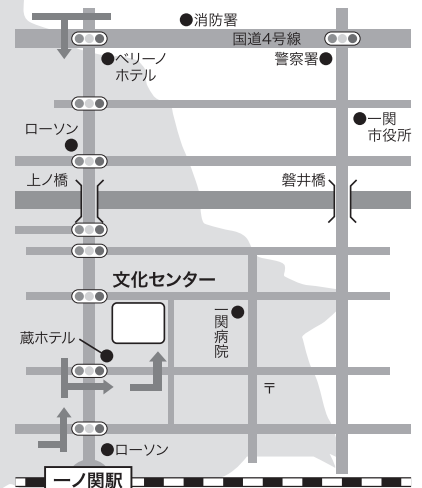
奈良文化財研究所では、平城宮跡の調査や整備に長く携わり、特に平城宮最大の宮殿である大極殿について、調査から復元整備を先頭に立て進めた。

平成23年から、平泉遺跡群調査整備指導委員会の委員長を務めている。

主要編著「平城京を掘る」(吉川弘文館、1992)、「発掘のロマン最前線」(毎日新聞、1993)、「遺跡が語る古代史」(東京堂出版、1996)、「平城京 街とくらし」(東京堂出版、1997)、「平城京の時代」(吉川弘文館、2010)など 著書・論文多数。



9:30~	受付	
10:00~10:15	開会行事	
10:15~11:25	基調講演	田辺征夫氏 (平泉遺跡群調査整備指導委員会委員長)
11:30~12:00	報告1	北村忠昭氏(公財 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 文化財専門員)
12:00~13:00	昼食・休憩	
13:00~13:30	報告2	杉本 宏氏(京都造形芸術大学 教授)
13:30~14:00	報告3	吉田 歓氏(山形県立米沢女子短期大学 教授)
14:00~14:30	報告4	渡辺健哉氏(大阪市立大学 准教授)
14:30~14:45	休憩	
14:45~16:15	パネルディスカッション	テーマ1 「“平泉”の発掘調査の成果を振り返る」 テーマ2 「世界遺産による新たな平泉の発見」 テーマ3 「世界へ発信すべき平泉」
16:20~16:30	閉会行事	



一関文化センター(一関市大手町2-16)
JR一関駅(西口)から徒歩5分 駐車場70台弱